

シンポジオンの参加について

シンポジオン世話人会 14.09.01 記

シンポジオンとはを読んで頂いた方。すでに何回も参加されている方。ここで、参加する場合の様相を記します。

参加は、話題提供者となるか討議者として参加するかのどちらかです。一般の講演会のように席に座って聞いて帰るのではなく、話をする側、討議する側の二者ということです。

■■ 1. 討議する側

話題提供者が主題に従って自らの活動をプレゼンします。その後、自由討議となります。話題提供者毎にこじんまりとした島をつくって、討議の方々が好きな島に出かけて論議します。このとき、話題提供者側も他の話題提供者側におしかけることもあります。なお、職業人は討議側でお願いします。若い方に胸を貸すということにもなろうかと。市民の方でも、市民感覚でお願いします。

■■ 2. 話題提供者

話題提供学生は主に大会開催地域の大学・短大・高専等の学生です。たまに、O B のさんかもあります。

・プログラムは例年以下のようになります。

14:00-14:10 開会挨拶、主旨説明

14:10-15:30 発表（1 チーム 10 分程度）

15:30-16:45 フリー討議（聴衆が各チームのテーブルに出向き、話題提供者と自由に討議）

16:45-17:00 各チームまとめ、全体のまとめ

・資料について、

資料等は、話題提供学生自身に印刷・持参していただいています。

・会場器材

パソコンとプロジェクタはこちらで用意します。U S B のご用意をお願いします。

なおマイパソコンも受け付けます。

■■ 3. 実施要領 一例

テーマ：「学内外における学生主体の建築活動（教育・研究・実践）」

会場 : **大学（大会会場）**棟**階第**会議室

日時 : **年**月**日、14 時から 17 時まで

参加者 話題提供学生：大会開催地区的大学の学生。*チーム。

職業人 : 全国実務者、研究者、教育者。

市民 : 街づくりなどで参加している一般市民、一般学生ほか。

プログラム : 5 分 主旨説明

45 分 各チーム発表 6 分程/チーム、計 5 チーム。

1 時間 10 分 フリー討議（聴衆が各チームのテーブルに出向きます。聴衆と自由に討議。）

10 分 各チームまとめ 3 分/チーム、

30 分 おなごりタイム、いのこり希望者のみ

チーム構成 :

◎構成

参加者募集は公募しております。先生方からの推薦も受け付けております。

各チーム、3 名位以上でチームを構成してください。理由は、フリー討議（下記項目を参考）の際、多くの方による皆様への質問に対応していただきたいからです。また、時間的に余裕ができたら、ほかの大学のブースに出かけて質問をしてきてほしいからです。

◎発表

発表時間は極めて短いです。発表者は 1 名に限らず、複数名で細切れに発表されてもかまいません。

発表要領 :

◎実施要領

15 分前 集合

(1)各自の発表内容を格納したフラッシュメモリから会場に設置されている PC にデータ転送します。

PC 持参の方はデータ転送必要なしですが、発表のときに各自の PC とプロジェクターを結線してください。

(2)各チームにテーブル（90cm*180cm 程）が一個（もしくは二個）用意されています。

その上に、資料や写真や地図、図面、模型などありましたら、見やすいように並べてください。大きなパネル持参の場合は適宜、壁面に立てかけたり床に置いたりしてください。

正時 発表

(3)発表はチームごとに持ち時間 6 分程で行います。パワーポイントなどを使って発表してください。

40-50 分後 討議

(4. 1)フリー討議では、（協力者も含めて）発表者は決められたテーブルにて待機してください。聴衆が、関心あるグループのテーブルに出向いてきます。（聴衆が誰も来ないテーブルも出てくるかと思いますが、そんなときは「私たちのところに来てください」といって勧誘してください。）

机の上に置いた図面や写真などを題材にして、訪れた聴衆と自由に討議してください。（ただしこのときPC利用は不可。）

(4.2) 各チームで人的に余裕があれば、よそのチームに討議を吹きかけに出かけられても結構です。学校間交流を深めてください。たとえ（勉学的な）四方山話になってしまっても大いに結構です。

とにかく、もち時間は1時間ほどですので、十分に討議できると思います。

1時間程あと　まとめの発表

(5) フリー討議終了の後、各チームでどのようなことが討議されたかを発表します。感想もあり。1チーム1分程で話をします。

(6) 最後には、各先生方からコメントをいただきます。その後、参加された先生方が全体の総括をいたします。

(7) 片付けは各チームで行ってください。場合によっては、会場全体の方付けを全員ですることもあります。

◎発表に際して若干のコメント：

今回のシンポジオンでは、学生諸君が主人公です。研究発表会のような堅苦しい発表ではなくて、リラックスしたトークをいただければ幸いです。皆さんの発表がひとつおり済んだ後には、大人たちが皆さんを文字通り囲み、ところかまわず議論を吹きかけてきます。激しいディスカッションラリーを続けてください。そして、フリーな討議を楽しんでください。フリー討議では、いならぶ大人たちに喝を入れる気持ちで、討議をリードしてください。また、学校間交流を深めてください。

◎宿題：

各チームの発表内容・討議内容・感想を箇条書きでも結構ですので、写真を含め（目安は400字程度、多ければ大歓迎）、下記アドレスまでメールで送ってください。

e-mail < ***@****.ac.jp >

皆様からいただいたものをまとめまして、事後トークとして、皆様に（参加した職業人たちにも）配信いたします。参考までに、

12年シンポジオン（名古屋にて開催）：建築雑誌13年2号活動レポート欄

HPについては、 <http://www1.ocn.ne.jp/~buna/chisgiki.html/kyouryoku/s12.pdf>

◎当日は15分前までに直接会場にお越しください。では、皆様のエネルギーな発表と討議を楽しみにしております。